

## ○ 諸外国の携帯電話用周波数の割当方式について

- ① 諸外国の携帯電話用周波数の割当てについては、制度上、オークション方式と比較審査方式のいずれも選択が可能となっており、その方式もオークション導入当初に比べて多様化。
- ② 「オークション方式」は、入札額の多寡のみで落札者を決定する「純粹オークション」、電波を割り当てる際のカバレッジ義務などの条件を課す「条件付きオークション」、技術やサービスの審査項目の得点化等を行い、入札額と組み合わせて審査する「スコアリングオークション」に分類される。
- ③ 諸外国では、電波の経済的価値を反映しつつ、市場動向等を踏まえて、多様な政策目的の達成を図るため、「条件付きオークション」が主流となっている。

### 電波の経済的価値に係る項目を含まない比較審査方式

#### スコアリングオークション

(技術・サービスの審査項目の得点化や係数化を行い、電波の経済的価値(入札額)と組み合わせて審査する方式)

※ 入札額と技術・サービスの審査項目をいずれも得点化して加算する方法(加算型)と、乗算する方法(乗算型)がある。

例 シンガポール2020年5G割当て、フランス2010年4G割当て及び2011年4G割当て

#### 条件付きオークション

(オークションにより電波を割り当てる際の条件(カバレッジ義務等)が課されるもの)

例 シンガポール2021年5G割当て、フランス2020年5G割当て、アメリカ2021年5G割当て、ドイツ2019年5G割当て

#### 純粹オークション

(オークションにより電波を割り当てる際の条件(カバレッジ義務等)が課されないもの。但し入札者の適格性審査は有り。)

例 オーストラリア2018年/2021年5G割当て

経済的価値の考慮の度合い



## ○ オークション方式のデメリットとされている事項

### 検討会での主な意見

- ① 欧州では、2000年の英国、ドイツの3Gオークションにおいて落札額が過度に高騰した事例があり、事業者が巨額の負債を抱え、第3世代携帯電話の導入が大幅に遅れたが、その失敗を踏まえ、事業者やモバイルネットワークの発展を政策目標とした制度に改善されているとの指摘があった。一方、「英国やドイツで落札額が高騰した」という事実と「第3世代携帯電話の導入が遅れた」という事実の間には因果関係はなく、オークションを採用しなかった国や、落札額の過度な高騰が生じなかった国でも第3世代携帯電話の導入は進まなかった事例があるとの指摘もあった。
- ② オークション方式は、資金力の大きい事業者への周波数の集中を招くおそれがあること、落札額の高騰による事業者のインフラ整備が遅れることや、ユーザ料金へ転嫁されることなどの恐れがあることから、諸外国ではデメリットの対応方策が導入されているとの指摘があった。
- ③ また、小規模事業者等が不利になることによる公正競争の後退への懸念、事業者の経済的負担が増加することで投資回収が長期化し、技術革新等があっても周波数帯域を再編することが困難化するのではないかという指摘があった。
- ④ 独占や事業者間格差の拡大、インフラ整備の遅れ、利用者料金の高騰が例示されるが、これらの対応策としては、オークション設計の工夫など事前に解決することが可能なものと、企業の自主的な取組や政府の施策として事後的に解決することが可能なものがあるのではないかとの指摘があった。

### まとめ

以上をまとめると、オークション方式の適切な制度設計が行われない場合には、デメリットの可能性があるとされている主な事項としては、以下の2点が挙げられると考えられる。

- 1) 落札額の過度な高騰 (とそれによるインフラ投資の遅れや利用者料金への転嫁)
- 2) 特定事業者への周波数の集中 (とそれによる公正競争の後退)